

バンクーバー便り 26～『バルカン星から太古地球へ』

バンクーバー時間：2024年8月18日(日曜日)午後3時30分

日本時間：2024年8月19日(月曜日)午後7時30分

皆さんこんにちは。バンクーバー便り 26 をお送りします。

今回は娘の夏休みを利用して、惑星連盟の宇宙船エンタープライズ Enterprise 号でミスター・スポック Mr. Spock の故郷バルカン Vulcan 星を訪れ、その後、ジョセフ・ティレル Joseph Tyrrell 博士のタイムマシンで恐竜たちの跋扈する太古の地球に戻りました。

バルカン星ことバルカン・カウンティ Vulcan County はカナダ・アルバータ州にあります。バルカンまではカルガリーから車で南方に1時間ほど高速道路を100～120 kmでドライブしたところにあり、人口2000人ほどの小さな村です。1966年9月、米国NBCから放送されたSFドラマ「スター・トレック Star Trek(ST)」—日本のタイトルは『宇宙大作戦』—は、劇場版を加えながら主人公の世代交代を繰り返し、2022年のST Strange New Worlds まで続く長大な作品です。STファンはトレッキーTrekkieと呼ばれています。最初のシリーズ The Original Series (TOS)でジェームズ・T・カーク James T. Kirk 船長の副官兼科学主任として耳の尖った中世の悪魔のような風貌のスポック [レオナード・ニモイ Leonard Nimoy(1931年3月26日～2015年2月27日)]が登場します。彼はバルカン星人の特徴である感情を克服した超論理的思考の個性的なキャラで多くのファンを魅了しました。また、バルカン・カウンティはST以前からあり、バルカンはローマ神話の火と鍛冶の神ウルカヌスのことです。この一致から町おこしのためバルカン星にあやかって1998年10月にミュージアムなどを建築しました。また、スポックの有名な指サインは、ニモイ氏が子どものころ親に連れていかれたユダヤ教会で、礼拝中に決して見えてはいけないと言われていたラビの仕草を好奇心から覗き見るとラビがああ指サインをしており、ニモイ氏はバルカン星人の挨拶「長寿と繁栄を Live long and Prosper」の時にこの指サインを使ったとのこと。

Banff を観光した後、カルガリーから北東に車で1.5時間ほどのところにドラムヘラー Drumheller という炭鉱町があります。この地でカナダの地質学者・古生物学者・探検家・歴史家のティレル博士が1884年8月に7000万年前の地層から未知の化石を発見し、アルバートサウルス Albertosaurus と命名しました。この業績を記念して1985年に前進の博物館が設立され1990年から Royal Tyrrell Museum と命名されています。博物館の周辺では幾層もの地層が露出しており、素人なら化石発掘現場としては最適の場所のように思えます。古生物の展示博物館としてはカナダ最大規模で、館内には大小さまざまな恐竜化石が展示されています。展示方法にも工夫があり、ただ展示物を見て回るのではなく、太古からの進化の過程や地殻変動などが総合的に理解できるようになっていました。また、館内では岩塊から化石の摘出作業が見学できるようにガラス張りの作業場があり、職員が化石の研磨や補修をしている様子を見ることができます。また博物館正面には実際の発掘現場が観察できるように展望台もありました。さらに夏のプログラムとして化石発掘の体験学習もあります。

今回のアルバータ州の旅は、家内の Lin が運転して宇宙船エンタープライズの建造された23世紀からアルバートサウルスの生きた7000万年前までの広大な時空間を駆け巡るほぼ2000 kmのトレックでした。それはスター・トレックのオープニングの有名なメッセージ「宇宙、人類最後のフロンティア Space, the final frontier」を彷彿とさせる未知への高揚した気持ちを湧き上がらせる体験でもありました。



